

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1171200627		
法人名	株式会社 あすなるホーム		
事業所名	あすなるホーム三郷		
所在地	埼玉県三郷市新和4-545-2		
自己評価作成日	平成22年5月1日	評価結果市町村受理日	平成22年7月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2F
訪問調査日	平成22年5月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・毎月、季節に合わせた行事を企画しており、季節を感じて頂いたり、毎日の暮らしとは少し違った、楽しみのあるひと時を過ごして頂けるようにしています。

・余暇時間の過ごし方も、一人ひとりに合った、好きな事を行って頂けるように、いろいろなものを準備し、楽しんで頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者が看護師ということもあり、急な体調の変化が起きた時には、極めて迅速な対応ができる環境であり、利用者、家族、職員が安心して生活ができる状況が確認できる。利用者一人ひとりを深く理解するまでのプロセスとして、全職員が同じ情報を理解、共有できる記録の方法に工夫がみられ、サービスの改善に効果が表れている。隣家の大家さんから野菜等の差し入れがある等、事業所との関係も良好である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念、ホームの目標を掲示し、いつでも確認できるようにしている。 また、朝礼で毎日、理念に基づいた目標を唱和しており、理念の共有を図っている。	理念に基づいたケアが実施されない場合、随時職員に注意、是正される迄指導を行い、利用者の生活環境の向上に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、地域で行われる夏祭りに参加したり、地域の小学校から、体験学習の受け入れを行い、交流を図っている。	周辺が工業地域という環境もあり、地域住民との関わりという面では、他のホームと若干環境が異なるが、概ね円滑に対応出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	随時、相談、見学を積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出された意見を参考にし、より地域の方との関わりを図れるよう、取り組んでいる。 家族から、場所がわかりにくいという、意見があり、看板などを取り付けるよう検討している。	隣家のオーナー、民生委員、家族代表、地域包括の参加協力を得て、各々の立場から運営に関して助言を頂きながら、生活の場として適した運営を推進していけるよう、2ヶ月に1回開催している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢者福祉課、および地域包括支援センターとの定期会合に出席し、情報交換を行っている。	市より各種会議の参加の要請がある時は、積極的に参加して、ケアに活かせるような情報を収集している。空室情報を報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームの目の前が、交通量の多い道路という事があり、玄関の施錠はやむを得ず行っている。が、それ以外では、目配りや声掛けなどを常に行い、身体拘束をせず、ケアを行っている。	終日落ち着かない利用者があると、周囲の利用者も不穏になり、生活面に影響が出てくるので、適切なケアができるよう全職員で取り組み、道路環境等を充分配慮し、拘束しないケアの実践をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ささいなことでも、報告や話し合いを行うように、日頃から職員間に申し伝えており、利用者の状況を皆で把握できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象となる方がいる際は、職員への説明を随時行っている。 必要時も、対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や、改定する際に、管理者より説明を行い、理解を得た上で、契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者、家族とは、面会時などに、話しをしたり、意見の交換を行っており、よりよいサービス提供が行えるようにしている。	ホームに対する家族の理解に誤差が生じないよう、常に話し合いを設けることで、利用者の利益になるように配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より、職員からの意見は、管理者へ伝えるようにしており、管理者も、意見をくみ取るよう努めている。	改まって意見を聞く場は設けていないが、様子を見ながら、随時声かけを行い、意見提言があれば即時に検討をして、就業し易い環境作りに努めている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者から現場の中に入り、職員の勤務状況などを、日頃より見ており、声掛けをされ、職場環境の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同系列の、グループ内での勉強会に参加したりし、各自のスキルアップにつながるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列のグループ内の勉強会や、事例検討会は行っているも、他事業所との交流が図れていない状況である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	特に始めは、本人の様子をよく観察し、声掛けを多くしている。何に不安を感じているのか等、情報を職員間で共有し、それを少しでも軽減できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの希望や注意してほしいことなどを必ず確認し、その点について、職員間でも情報を共有し、ケアにあたるようにしている。状況も家族へ報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時々々の状況を常に家族にも報告、相談するようにし、話し合い、本人、家族の望まれるように、対応していけるようにしている。(薬局や福祉用具の紹介など)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃より、利用者とのコミュニケーションを大切にしており、食事と一緒にしたり、共に楽しく過ごせる時間を持つことにより、利用者からも、気兼ねなく、何でも言ってもらえるようにしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の望まれる暮らしを第一に考え、ささいな事でも、家族へ報告、相談するようにし、共に本人を支援するようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	当ホームにデイサービスの利用をされている友人や、奥様が利用者に会いに来られたり、これまでの暮らしや、人とのつながりを、大切にして頂けるようにしている。	デイサービスが併設されている環境を、有効的、効果的に捉えて、昼食等同席されて、楽しみに繋げている。イベント、ボランティア訪問等一緒に楽しむことができる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間でのトラブル等ないように、常に目配りを行い、予防している。 また、利用者同士が協力して何かをしたり、関わりを持てる場をもうけ、一緒に楽しく過ごして頂けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	随時、相談などは受け付けており、対応できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から、その方のお好きだった事や、これまで続けてこられた事を、続けて行って頂けるように支援している。生活リズムもその方に合わせ、ひとりひとりの意思を尊重するようにしている。	敷地内に菜園があり、利用者と相談をして、野菜の苗を買い、水やり等日課に組み込んでいる。収穫した野菜を食事時に提供して喜ばれ、利用者の意欲向上に繋がるよう努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からも、利用者について、これまでの生活歴や、その人の人となりがかかるよう、情報を得るようにしている。それに基づき、利用者とも関わりを工夫し、発展させ、さらに情報を引き出せるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する方等の現状の把握に努めている	その方の毎日の状況を観察し、職員間で情報の共有(報告、記録、申し送り、カンファレンス)を行い、日々の変化等を、皆で把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がどのように暮らしたいのかを第一に考え、現在のその方にあったケアが行えるよう、定期的に皆で話し合い、(施行状況は毎日記録し、記録からも確認する)プラン内容の検討、変更をし、施行している。	生活の中で利用者が出来ること、やりたいことを身体状況を考慮しながら支援する為に、随時カンファレンスを行なっている。より良いケアプラン作成に想いが反映できるよう、日々の様子を記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者との会話など、実施したケアだけでなく、職員との関わりがわかるような内容も記録することにより、よりその方のことが、皆に分かるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	車椅子が必要になった方へ、レンタルサービスの事業者と連携を図り、よりその方にあったものを検討できるようにするなど、他のサービスとの連携も図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ハーモニカ演奏を行って下さるボランティアの方に毎月来て頂いたり、利用者にも、楽しく過ごせる時間を持って頂けるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の健康状態等、異常がみられた時など、すぐに受診をして頂くようにしており、報告、相談も密に行っている。 病院への報告も、看護師が手紙を書くなどし、よりくわしく伝わるようにしている。	管理者が看護師ということもあり、各階に1人ずつ看護師の配置が可能な看護体制が構築されていることから、安心して暮らせる環境がある。往診医の対応は無いが、連携病院の確保はある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づいた事は、すぐに看護師に報告しており、看護師の指示のもと、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者についての情報を病院と共有し(介護サマリーの記入、状況の詳しい説明等)、利用者によりよい対応ができるようにしており、ムンテラにも参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所としての、終末期における対応や方針は、家族とも相談しており、本人にとって、どのようにするのが一番であるのか、その時の状況に合わせて、検討している。 連携病院にも、協力をしてもらっている。	様々な自治体等の話し合いの場には積極的に参加をして、終末ケアの知識、可能な対応等、職員の研修に繋げていくことができるよう、準備をしている段階であり、前向きに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応、動きの流れを掲示しており、随時動きの確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施しており、一連の動きの確認を行っている。スプリンクラーの設置予定もあり、火災対策を行っている。 地震や水害対策については、もう少し検討する必要がある。	江戸川が直近という立地条件があり、水害に対して常に危機感がある。堤防の決壊はないと思っているが万が一の事態に対して、対策を強化していきたい考えがある。	三郷市の防災関係、自治会との協力を確認して、水災害に対しての避難方法の確立に向けて早急に、関連機関に働きかけていきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しい関係を築きつつも、その人らしさを尊重し、その方に合わせた接し方や対応をしている。 常に、尊敬の念を持つ事を念頭におくようにしている。	現在利用者に提供しているケアが、その人に適合しているか、意欲を掘り起こす手伝いが出来ているか、又研修内容や指導等守って、一人ひとりを尊重した声かけを実施しているか、振り返りをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべくその方のしたいと思われることを尊重し、思いにそえるように、必ず何かをする前に声掛け、確認をしてから対応するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせて、生活して頂けるように、食事や入浴などの時間、回数など、その方に合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、御自分でアクセサリーを選んでつけて頂くようにしたり、帽子が好きな方には、自宅より持ってきて頂き、かぶってもらえるようにしたりしている。行事の時などは、女性にはお化粧を楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	みそ汁をよそって頂いたり、利用者自ら、下膳をして下さったり、食器を拭いて下さったりと、積極的に行って下さっている。 昼食は、職員も一緒に食事している。	管理栄養士の立てた献立を提供できており、誕生日会特別メニュー、おやつ作り等利用者、全職員で相談して作る楽しみを共有できている。ガス不可の為プレートの活用が好評で、継続している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量は、毎食時確認しており、状態の把握を行っている。 食事の量や食事形態なども、一人ひとりに合わせて調節している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各自に合わせた方法で、口腔ケアを行って頂いており、状態の観察もやっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合わせた誘導時間や、誘導方法を行ったり、尿、便意のサインを見逃さないように、目配りを行い、トイレで排泄をして頂けるようにしている。	リハビリパンツの利用者が多く、排泄時の失敗感をできるだけ少なく、感じさせないようにケアに努めている。職員は仕草や行動から便意のサインを汲み取る努力を怠らない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認を注意して行い、便の状態、回数などを、一人ひとり把握するようにしている。 看護師の指示のもと、適切に下剤の使用、調節も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりに合わせ、拒否されるようなら、無理には行わず、日にちを変えたり、入浴回数も、その方の希望にそって入って頂くようにしている。体力やその日の体調なども考慮し、入浴して頂いている。	午前中に入浴する利用者が多く、ケアの内容を工夫して対応している。出来るだけ希望に添うような支援を心掛け、拒否傾向の利用者対策も万全なことが確認出来る。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の年齢、体力、健康状態を考慮し、無理のないよう、適時に、自由に休息をとって頂いている。室内の温度、照明なども注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服している薬の種類や、用法等の書かれたものを、個人のファイルに保存しており、変更のあった際も、すぐに内容を確認し、状態観察を行うようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自の趣味やお好きな事を行って頂けるよう、お酒の好きな方には、毎日晩酌を楽しんで頂いたり、その方らしさを大切に、いろいろな支援を行っている。食器拭き、洗濯物たたみなど、各自にあった役割をもって頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に合わせ、随時散歩など行っている。行事として、お花見や外食など行っている。	利用者の希望に添うように出来るだけの支援はしているが、毎月1回の外食支援が定着せず、利用者の希望第一に実施できるように努力をしていきたいと考えている。	地域馴染みの関係の継続が一番というホームの在り方から、安全面の強化と共に外出支援の機会を増やすことで、利用者に喜んで貰える様、前向きに検討したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いをお預かりしており、随時、希望された時は使ってもらえるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	随時、電話は使用できるようにしており、希望時に使ってもらえるようにしている。 手紙も受け取り、投函等の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは、快適に過ごして頂けるよう、清潔を保っている。 食堂には生花を飾ったり、利用者によって頂いた、季節をモチーフにした作品を飾るなど、季節感を感じて頂けるようにしている。	利用者が積極的に飾ったり、作ったりする気持ちを尊重して、出来ないところの援助をして、共有空間を居心地良くできるように協力している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の他に、和室、ソファのあるスペースがあり、雑誌を置くなどし、自由に過ごして頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や、御自分で作った作品などを飾って頂いたり、布団なども、使い慣れたものを自宅よりお持ち頂き、使ってもらっている。	家具の新調、搬入等、利用者、家族と相談をして居室作りを支援している。馴染みの物の中で、落ち着くことが出来るように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわかりやすいように、案内を掲示したり、刃物など、危険性のある物は、安全な場所にしまったりと、安全で快適に過ごして頂けるようにしている。		